

令和6年度 病院事業局当初予算事項

今後の医療需要の増大・高度化を見据えた社会保障制度改革等の環境変化に適切に対応していくとともに、厳しい医療環境の下でも県立病院としての役割を果たしていくための医療機能の強化、経営基盤の強化に取り組む予算案を策定。

1 当初予算総括表

(1) 病院事業会計

(単位：千円、%)

区分	令和5年度 当初予算額①	令和6年度 当初予算額②	比較		備考	
			②-①	②/①		
<b>病院事業収益 a (b+c+d)</b>	<b>29,551,786</b>	<b>30,385,344</b>	<b>833,558</b>	<b>102.8</b>		
内 訳	医業収益 b	25,831,946	28,204,538	2,372,592	109.2	
	うち入院収益	17,646,351	18,997,164	1,350,813	107.7	患者数の増
	うち外来収益	7,453,943	8,480,694	1,026,751	113.8	診療単価の増
	医業外収益 c	3,689,840	2,150,806	▲ 1,539,034	58.3	コロナ関係補助金の減
	特別利益 d	30,000	30,000	0	100.0	
<b>病院事業費用 e (f+g+h)</b>	<b>29,417,466</b>	<b>30,263,649</b>	<b>846,183</b>	<b>102.9</b>		
内 訳	医業費用 f	28,954,746	29,779,541	824,795	102.8	給与費 +612,250
	医業外費用 g	411,596	428,058	16,462	104.0	負担金 +57,306
	特別損失 h	51,124	56,050	4,926	109.6	
<b>医業収支 (b-f)</b>	<b>▲ 3,122,800</b>	<b>▲ 1,575,003</b>	<b>1,547,797</b>	<b>50.4</b>		
<b>医業外収支 (c-g)</b>	<b>3,278,244</b>	<b>1,722,748</b>	<b>▲ 1,555,496</b>	<b>52.6</b>		
<b>経常収支 (b+c)-(f+g)</b>	<b>155,444</b>	<b>147,745</b>	<b>▲ 7,699</b>	<b>95.0</b>		
<b>収支差 (a-e)</b>	<b>134,320</b>	<b>121,695</b>	<b>▲ 12,625</b>	<b>90.6</b>		

資本的 収支	資本的収入 i	1,699,807	3,309,207	1,609,400	194.7	企業債 +1,574,400
	資本的支出 j	3,028,318	4,701,824	1,673,506	155.3	
	うち建設改良費	1,069,205	2,648,106	1,578,901	247.7	資産購入費+1,329,676 建設工事費+249,225
	<b>収支差 (i-j)</b>	<b>▲ 1,328,511</b>	<b>▲ 1,392,617</b>	<b>▲ 64,106</b>	<b>104.8</b>	

<b>支出予算額計 (e+j)</b>	<b>32,445,784</b>	<b>34,965,473</b>	<b>2,519,689</b>	<b>107.8</b>	広島 : 32,292,447 安芸津 : 2,673,026
-------------------------	-------------------	-------------------	------------------	--------------	------------------------------------

(2) 一般会計

(単位：千円、%)

区分	令和5年度 当初予算額①	令和6年度 当初予算額②	比較		備考
			②-①	②/①	
衛生費	2,394,798	2,484,181	89,383	103.7	
病院事業会計への繰 出金	2,394,798	2,484,181	89,383	103.7	

## 2 取組状況と令和6年度計画

### (1) 広島病院の取組状況等

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症について分類が変更されたが、従前どおり主に入院加療が必要な中等症以上の患者を積極的に受け入れる一方で、脳心臓血管センター、呼吸器センター、消化器センターなど専門医療センターによる高度医療の強化に取り組んでいる。また、ドクターカーの運用や、内科救急診療部の設置による救急患者受入れの迅速化、手術支援ロボットの導入や高精度放射線治療システムの更新など、がん医療の対応強化に継続して取り組んでいる。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行は落ち着きつつあるものの、受診患者数が感染症流行前の状態に完全には回復していないことから、医業収支は厳しい状況となっている。

令和6年度は「高度医療・人材育成拠点基本計画」の内容を念頭に、新病院移転へ向けて一層の高度医療の強化に取り組むとともに、経費の節減など収支改善にも取り組んでいく。

#### ① 令和5年度の主な成果及び令和6年度の主な取組

##### <患者受入体制の強化>

項目	令和5年度の主な成果及び令和6年度の主な取組
救急医療の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○救急車応需率向上に向けた取組 (H28.8～継続)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内の救急部会での救急患者受入要請の不应需事例の検証 救急車応需率 (R4 90.0% R5 見込 85.0%) ※3次救急ホットライン分 救急車・ヘリ受入件数 (R4 7,757件 R5 見込 6,914件)</li> </ul> </li> <li>○救命救急センター (ICU・HCU) 等の効果的な活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICU・HCUへの救急患者、院内術後重症患者等の受入れ</li> <li>・内科救急診療部における内科疾患の救急紹介・救急患者 (原則救急車限定) に対する窓口の一本化による患者の受入れの迅速化・効率化の継続実施 (H31.4～)</li> </ul> </li> <li>○ドクターカーの運用 (H30.7～平日日中で運用)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドクターカーで救命救急センター医師等が救急現場へ急行、処置することにより、救急患者の治療成績向上や救急隊の病院選定の負担軽減 (受入困難事例の減少と搬送病院選定の時間短縮) を図る。 ドクターカー出動件数 (R4 330件 (うち広島病院受入件数 149件) R5 見込 140件)</li> </ul> </li> </ul>
がん医療を含めた高度医療の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○呼吸器・消化器センターの機能の充実 (H29.4～継続)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数診療科の連携による専門センターの設置運用 (肺、消化管等の悪性腫瘍の受入強化) 新規入院患者数 (呼吸器センター R4 1,849人 R5 見込 1,860人) (消化器センター R4 2,573人 R5 見込 2,624人)</li> </ul> </li> <li>○脳心臓血管センターの機能強化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ハイブリッド手術室」の設置 <u>X線撮影装置と手術台を同室へ入れ、低侵襲のカテーテル治療と開腹・開胸の手術の双方が1室で実施可能な手術室を設置する。これによりTAVI (経カテーテル的弁置換術) などの手術が実施可能となる (令和6年度に改装・新機器設置予定)。</u></li> </ul> </li> <li>○がん遺伝子診療機能の強化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・エキスパートパネル検査等を行なう「がんゲノム医療拠点病院」の指定 (R5.3) を受け、遺伝子情報に関する検査を単独で実施 (R5.7～) ※都道府県立病院では2施設のみ 遺伝カウンセリング (R4 71件 R5 見込 76件) ※健康保険適用分 がんゲノム検査 (R4 189件 R5 見込 190件)</li> <li>・ゲノム診療科の設置によるがんゲノム医療提供体制の強化 (R4～)</li> </ul> </li> <li>○医療機器の導入、更新による高度医療の強化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・手術支援ロボット (ダヴィンチ) の新規導入による手術の高度化及び安全性の向上 (手術件数 R4 123件 R5 見込 200件)</li> <li>・高精度放射線治療システム (リニアック) を更新し、がん診療連携拠点病院として、放射線治療に係る診療機能を強化 (R5.5～IMRTを開始 9月末時点延べ照射件数 1,221件)</li> </ul> </li> </ul>

地域医療連携の強化	<p>○地域完結型医療の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダヴィンチ導入、リニアック更新など高度医療機能の他の医療機関等への積極的なPR</li> <li>・かかりつけ医との連携強化（逆紹介の推進） 紹介率（R4 94.3% R5 見込 96.3%） 逆紹介率（R4 148.4% R5 見込 144.6%）</li> </ul>
新型コロナウイルス感染症への対応	<p>○新型コロナウイルス感染症への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症重点医療機関として県内最大数の病床を確保し、重症を含む中等症以上の患者を中心とした入院患者の受入れを積極的に実施 (R4 延9,857人（うち中等症Ⅱ以上3,720人）R5.4~9 延2,562人（うち中等症Ⅱ以上701人）</li> </ul>

<医療の質と患者満足度の向上>

医療の質と患者満足度の向上	<p>○チーム医療の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者が抱える課題に対し、多種の医療職種からなるチームを編成し、それぞれの専門知識を活用して医療の質（早期回復、早期退院など）の向上を目指す。また、担当する専門・認定看護師など医療職を育成する。</li> <li>・栄養サポートチーム ・褥瘡対策チーム ・糖尿病チーム ・口腔ケアチーム</li> <li>・摂食嚥下チーム ・認知症ケアチーム ・精神科リエゾンチーム</li> <li>・周術期管理チーム（R4 新設）</li> </ul> <p>○業務改善活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午後外来の推進などによる患者待ち時間の短縮</li> <li>・TQM活動、5S活動の推進</li> <li>・患者満足度アンケート（満足割合）（入院・外来全体）R4 97.4%（外来待ち時間）R4 75.8%</li> </ul> <p>○ジェネリック薬品の導入促進による患者医療費負担の軽減</p> <p>○周術期管理センターの設置（R4~）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院関連業務を集約した患者総合支援センターによる患者、家族の入退院に関する相談等のワンストップ支援を継続することに加え、令和4年度に設置した周術期管理センターを併設し、手術患者の課題について入院前から多職種で支援することにより、術後の早期回復・退院を目指す。</li> </ul> <p>周術期管理に係る加算件数の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「麻酔管理料周術期薬剤管理加算」R4 4,147件 R5 見込 4,476件</li> <li>「周術期栄養管理実施加算」R4 469件 R5 見込 844件</li> <li>「術後疼痛管理チーム加算」R4 158件 R5 見込 1,026件</li> </ul>
---------------	---

<収支改善への取組>

増収対策の取組強化	<p>○診療報酬算定適正化への継続的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DPC機能評価係数の向上と、入院収益改善を図ることを目的とした「入院期間適正化PT」において、診療科別の入院期間の適正化を継続実施（H31.4~）</li> </ul>
材料費、経費等の費用の節減	<p>○材料の標準化・統一化等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬品も含め、材料の標準化・統一化を図るとともに、全国価格データによる値引き交渉や、共同購入を引き続き実施</li> </ul>

<高度医療・人材育成拠点基本計画の推進>

高度医療・人材育成拠点整備事業	<p>○新病院の設計及びシステムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本計画を踏まえた、新病院の基本設計・地盤調査・埋蔵文化財試掘に係る準備</li> <li>・地方独立行政法人の設立に向けた、事務系システムの構築及び、県の福利厚生システムに係る改修費用を負担</li> </ul>
-----------------	---

## ② 経営状況（経営目標）

（広島病院）

業務の状況		R4 (実績)	(A)R5 (当初)	(B)R5 (見込)	(C)R6 (当初)	比較											
						C-A	C-B										
患者数(人)	入院延患者数	176,816	179,404	179,404	199,610	20,206	20,206										
	病床利用率	80.3%	78.2%	78.2%	87.2%	+9.0p	+9.0p										
	外来延患者数	250,461	273,916	273,916	273,916	0	0										
入院単価(円)		90,698	92,800	92,800	89,195	▲ 3,605	▲ 3,605										
外来単価(円)		26,587	25,447	25,447	29,463	4,016	4,016										
経常収益		27,457	27,181	27,181	28,231	1,050	1,050										
経常費用		26,186	27,030	27,206	27,820	790	614										
経常収支		1,271	151	▲ 25	411	260	436										
経常収支の状況(百万円)		<table border="1"> <caption>経常収支の状況(百万円)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>700</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>1,271</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>▲ 25</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>411</td> </tr> </tbody> </table>						年度	実績(見込)	R3	700	R4	1,271	R5	▲ 25	R6	411
年度	実績(見込)																
R3	700																
R4	1,271																
R5	▲ 25																
R6	411																

## (2) 安芸津病院の取組状況等

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症への対応として、ワクチンの接種や発熱外来の設置、入院患者の受入などを行っており、通常時は2床を受入可能な病床としている。

また、専門外来やアウトリーチクリニックを継続し、CTの更新のほか、MRIの新規導入の検討など、医療機能の強化に向けた取組を進めている。

令和6年度は、引き続き、在宅療養支援の充実や予防医療の強化などを図ることで、地域包括ケアシステムの質の向上に貢献するとともに、CTやMRIによる検査・診断の充実を図ることで、収支の改善に取り組んでいく。

また、耐震化対応の具体化に向け基本構想・基本計画の策定を進める。

### ① 令和5年度の主な成果及び令和6年度の主な取組

<危機管理対応・医療機能の強化（患者受入体制の強化）>

項目	令和5年度の主な成果及び令和6年度の主な取組
災害対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○耐震化対応に向けた検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧棟の耐震化対応に向けた検討を開始（R1.9～）</li> <li>・<u>新型コロナウイルス感染症の流行による患者数を踏まえ、耐震化対応に係る方向性について検討（R4～）</u></li> <li>・耐震化対応の具体化に係る基本構想・基本計画を策定</li> </ul> </li> </ul>
予防医療の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人間ドック・がん検診の件数増に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により中止していた医療公開講座や地域イベントへの参加、地元企業や行政機関への訪問による健（検）診受診促進</li> <li>健（検）診受診者数（R4 998人 R5見込 1,170人）</li> <li>内視鏡件数（R4 1,125件 R5見込 1,300件）</li> <li>・多職種による骨粗鬆症予防のための出張講座等の実施</li> </ul> </li> </ul>

<p>地域との連携 (地域包括ケアの推進)</p>	<p>○介護施設等との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネージャーを有する町内の全介護保険施設が参加する協議会である「あきつの和」を通じて、地域の介護施設等との連携強化を図ることで、地域包括ケアシステムの質の向上に貢献</li> <li>・認定看護師による他病院や介護施設等への感染症予防対策や認知症対策等の指導を実施し、地域の医療・介護機能を向上 訪問看護実施数 (R4 1,610 枠 R5 見込 1,820 枠)</li> </ul> <p>○地域包括ケア病床(急性期後のリハビリ、在宅復帰に向けた支援)の拡充(H29.4~)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期入院ニーズに対応し、平成29年度に21床から29床に8床増床、令和6年度以降、更なる増床を予定 地域包括ケア病床稼働率 (R4 74.5%※ R5 見込 78.7%) ※新型コロナウイルス感染症患者の受入期間中、地域包括ケア病床を閉鎖している</li> </ul>
<p>新型コロナウイルス感染症への対応</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症患者の受入を実施 (R4 延880人(うち中等症Ⅱ以上598人) R5.4~9 延167人(うち中等症Ⅱ以上29人))</li> <li>・発熱などの症状がある患者の診療を行う発熱外来を設置 (R4 3,495人 R5.4~9 794人)</li> <li>・個別接種医療機関として、地域住民等に対しワクチン接種を実施 (R4 2,995件 R5.4~9 837件)</li> </ul>

<医療の質と患者満足度の向上>

<p>医療の質と患者満足度の向上</p>	<p>○TQM活動や5S活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島病院の改善推進部と連携し、TQM活動、5S活動の推進</li> </ul> <p>○ジェネリック薬品の導入促進による患者医療費負担の軽減</p> <p>ジェネリック使用数量割合 (R4 90.0% R5 見込 87.9%)</p> <p>○認知症への対応力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症を患う入院患者への対応力向上のため、精神科医による診療援助を開始 (R3.11~)</li> </ul> <p>○MRIの新規導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンMRIを新たに設置し、医療機能の強化を図る</li> </ul>
----------------------	--

<収支改善の取組>

<p>増収対策の取組強化</p>	<p>○訪問診療の取組の継続等による診療報酬の取得の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア入院医療管理料1 (H30.7~)</li> </ul> <p>○看護体制の強化による加算の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職員配置加算 (H30.5~)、看護職員夜間配置加算 (H30.5~)、急性期看護補助体制加算 (H30.4~)</li> </ul> <p>○専門外来の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当院の特徴ある専門外来として、「人工関節外来、骨粗しょう症外来、フットケア外来、糖尿病外来」をアピールして外来患者の増加に取り組んだ。 患者数 (R4 1,053人 R5 見込 1,400人)</li> </ul>
<p>材料費・経費等の費用節減</p>	<p>○薬品費の節減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用薬品を広島病院と共通化し、両病院共同で購入価格の適正化を推進 共通化品目割合 (R4 99.5% R5 見込 99.1%)</li> </ul>

## ② 経営状況（経営目標）

（安芸津病院）

業務の状況		R4 (実績)	(A)R5 (当初)	(B)R5 (見込)	(C)R6 (当初)	比較											
						C-A	C-B										
患者数(人)	入院延患者数	17,470	26,263	26,263	30,541	4,278	4,278										
	病床利用率	61.6%	73.2%	73.2%	85.4%	+12.2p	+12.2p										
	外来延患者数	50,837	61,737	61,737	51,215	▲ 10,522	▲ 10,522										
入院単価(円)		44,598	37,990	37,990	39,061	1,071	1,071										
外来単価(円)		8,449	7,833	7,833	8,012	179	179										
経常収益		2,102	2,341	2,341	2,124	▲ 217	▲ 217										
経常費用		2,150	2,336	2,349	2,388	52	39										
経常収支		▲ 48	5	▲ 8	▲ 264	▲ 269	▲ 256										
経常収支の状況(百万円)		<table border="1"> <caption>経常収支の状況(百万円)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>▲ 98</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>▲ 48</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>▲ 8</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>▲ 264</td> </tr> </tbody> </table>						年度	実績(見込)	R3	▲ 98	R4	▲ 48	R5	▲ 8	R6	▲ 264
年度	実績(見込)																
R3	▲ 98																
R4	▲ 48																
R5	▲ 8																
R6	▲ 264																

## ③ 病院事業全体（経営状況）

（病院事業全体）

業務の状況		R4 (実績)	(A)R5 (当初)	(B)R5 (見込)	(C)R6 (当初)	比較											
						C-A	C-B										
患者数(人)	入院延患者数	194,286	205,667	205,667	230,151	24,484	24,484										
	病床利用率	78.1%	77.5%	77.5%	87.0%	+9.5p	+9.5p										
	外来延患者数	301,298	335,653	335,653	325,131	▲ 10,522	▲ 10,522										
入院単価(円)		86,553	85,801	85,801	82,542	▲ 3,259	▲ 3,259										
外来単価(円)		23,527	22,207	22,207	26,084	3,877	3,877										
経常収益		29,559	29,522	29,522	30,355	833	833										
経常費用		28,336	29,366	29,555	30,208	842	653										
経常収支		1,223	156	▲ 33	147	▲ 9	180										
経常収支の状況(百万円)		<table border="1"> <caption>経常収支の状況(百万円)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>602</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>1,223</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>▲ 33</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>147</td> </tr> </tbody> </table>						年度	実績(見込)	R3	602	R4	1,223	R5	▲ 33	R6	147
年度	実績(見込)																
R3	602																
R4	1,223																
R5	▲ 33																
R6	147																

### 3 財務状況

#### (1) 比較予定損益計算書

(単位：千円)【税抜】

科 目	R5決算 見込(A)	R6当初 予算(B)	差 引(B-A)
<b>病院事業収益 a</b>	<b>29,477,904</b>	<b>30,312,796</b>	<b>834,892</b>
<b>医業収益 b</b>	25,778,222	28,160,178	2,381,956
入院収益	17,643,839	18,993,734	1,349,895
外来収益	7,429,590	8,466,715	1,037,125
その他	704,793	699,729	▲ 5,064
<b>医業外収益 c</b>	3,669,682	2,122,618	▲ 1,547,064
<b>特別利益 d</b>	30,000	30,000	0
<b>病院事業費用 e</b>	<b>29,531,092</b>	<b>30,193,460</b>	<b>662,368</b>
<b>医業費用 f</b>	27,915,122	28,525,579	610,457
給与費	13,996,837	14,420,037	423,200
材料費	8,321,051	8,388,517	67,466
減価償却費	1,435,621	1,379,187	▲ 56,434
その他	4,161,613	4,337,838	176,225
<b>医業外費用 g</b>	1,568,065	1,613,002	44,937
<b>特別損失 h</b>	47,905	54,879	6,974
<b>当年度純損益(a-e)</b>	<b>▲ 53,188</b>	<b>119,336</b>	<b>172,524</b>
<b>経常収支(b+c)-(f+g)</b>	<b>▲ 35,283</b>	<b>144,215</b>	<b>179,498</b>

#### (2) 予定キャッシュフロー計算書

(単位：千円)【税抜】

科 目	R 5 年度	R 6 年度
<b>I 業務活動によるキャッシュフロー</b>		
当年度純損益	▲ 53,188	119,336
退職給付等(退職給付、賞与、貸倒)引当	32,681	38,428
減価償却費	1,435,621	1,379,187
固定資産の除却	25,519	36,168
長期前払消費税償却・繰延勘定償却	84,059	89,316
長期前受金戻入収益	▲ 569,153	▲ 529,746
その他(未収金・未払金の増減等)	1,210,314	▲ 159,504
<b>業務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>2,165,853</b>	<b>973,185</b>
<b>II 投資活動によるキャッシュフロー</b>		
固定資産の取得等	▲ 1,236,063	▲ 1,259,692
その他(一般会計負担金等)	681,962	717,885
<b>投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>▲ 554,101</b>	<b>▲ 541,807</b>
<b>III 財務活動によるキャッシュフロー</b>		
企業債の発行	1,430,100	2,586,900
企業債等(企業債、基金借入金)の償還金	▲ 1,959,113	▲ 2,053,718
一般会計出資金	1,833	1,865
<b>財務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>▲ 527,180</b>	<b>535,047</b>
<b>IV 資金増減額</b>	<b>1,084,572</b>	<b>966,425</b>
<b>V 資金期首残高</b>	<b>2,147,786</b>	<b>3,232,358</b>
<b>VI 資金期末残高</b>	<b>3,232,358</b>	<b>4,198,783</b>
フリーキャッシュフロー(営業CF+投資CF)	1,611,752	431,378

## (3) 比較予定貸借対照表

(単位：千円)【税抜】

科 目		R 5 年 度 末		R 6 年 度 末		差 引(B-A)
		金 額(A)	構 成 比 率	金 額(B)	構 成 比 率	
資 産 の 部	固定資産	16,121,311	66.5%	17,259,830	64.7%	1,138,519
	有形固定資産	15,551,293	64.1%	16,544,600	62.1%	993,307
	無形、その他の資産	570,018	2.4%	715,230	2.7%	145,212
	流動資産	8,130,409	33.5%	9,398,731	35.3%	1,268,322
	現金預金	3,232,358	13.3%	4,198,783	15.8%	966,425
	未収金、その他	4,898,051	20.2%	5,199,948	19.5%	301,897
	うち貸倒引当金	▲ 31,138	▲ 0.1%	▲ 31,138	▲ 0.1%	0
<b>資 産 合 計</b>		<b>24,251,720</b>	<b>100.0%</b>	<b>26,658,561</b>	<b>100.0%</b>	<b>2,406,841</b>
負 債 の 部	固定負債	12,047,841	49.7%	12,852,206	48.1%	804,365
	うち企業債	5,841,738	24.1%	6,646,103	24.9%	804,365
	うち退職給付引当金	5,988,100	24.7%	5,988,100	22.5%	0
	流動負債	6,698,772	27.6%	7,991,908	30.0%	1,293,136
	うち企業債	2,109,542	8.7%	1,838,360	6.9%	▲ 271,182
	うち賞与引当金	581,093	2.4%	619,521	2.3%	38,428
	繰延収益（長期前受金）	2,998,150	12.4%	3,186,289	12.0%	188,139
<b>負 債 合 計</b>		<b>21,744,763</b>	<b>89.7%</b>	<b>24,030,403</b>	<b>90.1%</b>	<b>2,285,640</b>
資 本 の 部	資本金	29,030,255	119.7%	29,032,120	108.9%	1,865
	自己資本金	29,030,255	119.7%	29,032,120	108.9%	1,865
	うち繰入資本金	28,469,624	117.4%	28,471,489	106.8%	1,865
	剰余金	▲ 26,523,298	▲ 109.4%	▲ 26,403,962	▲ 99.0%	119,336
	資本剰余金	872,957	3.6%	872,957	3.3%	0
	利益剰余金(累積欠損金)	▲ 27,396,255	▲ 113.0%	▲ 27,276,919	▲ 102.3%	119,336
	繰越欠損金年度末残高	▲ 27,343,067	▲ 112.7%	▲ 27,396,255	▲ 102.8%	▲ 53,188
当年度純損益	▲ 53,188	▲ 0.2%	119,336	0.4%	172,524	
<b>資 本 合 計</b>		<b>2,506,957</b>	<b>10.3%</b>	<b>2,628,158</b>	<b>9.9%</b>	<b>121,201</b>
<b>負債・資本 合 計</b>		<b>24,251,720</b>	<b>100.0%</b>	<b>26,658,561</b>	<b>100.0%</b>	<b>2,406,841</b>